

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

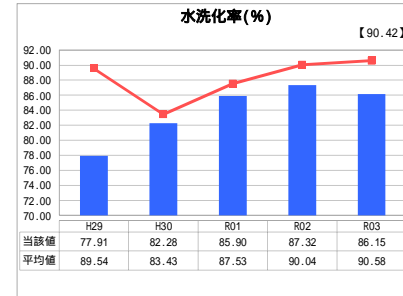
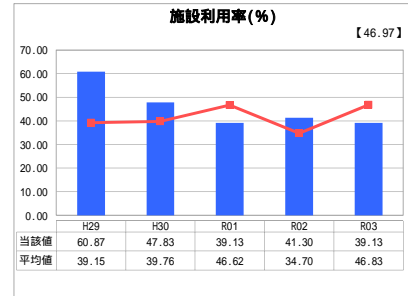
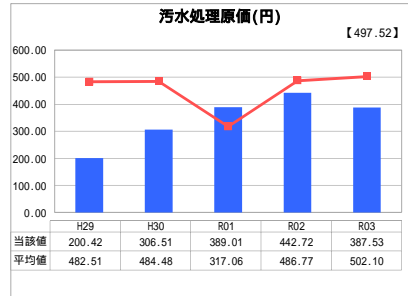
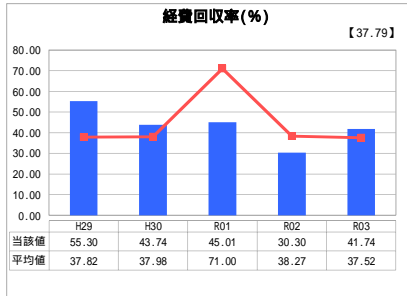
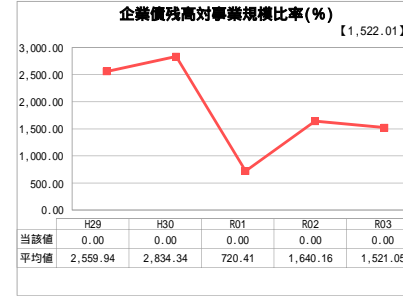
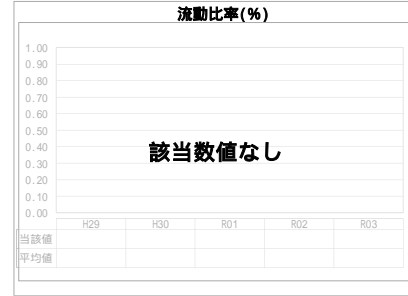
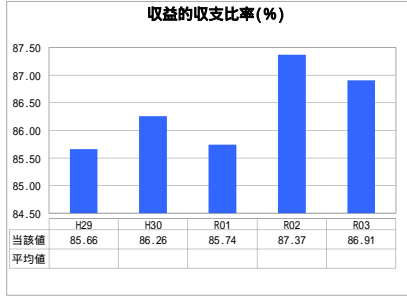
熊本県 山鹿市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	小規模集合排水処理	I2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.13	89.24	3,560

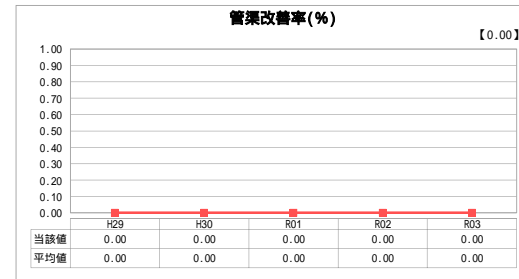
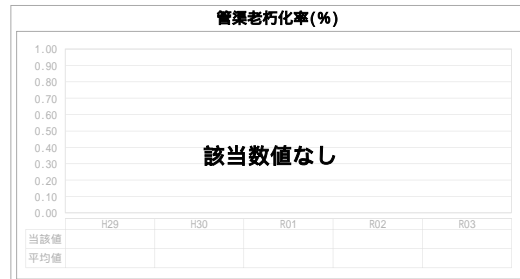
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
50,051	299.69	167.01
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
65	0.05	1,300.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率（収益で費用を賄っている比率）については、若干悪化した。財源を一般会計からの繰入金に依存しているため、維持管理費の削減を図る必要性がある。

経費回収率（経費を使用料で賄っているかの指標）は、昨年度が災害による費用増加による影響があったため今年度は例年水準に戻ったが、今後の人口減少も踏まえ、汚水処理費の削減の検討が必要である。

汚水処理原価（汚水処理に要した費用）についても例年水準に戻った。全国平均よりも低い水準ではあるが、将来の人口減少を見据えた維持管理費の削減が必要である。

施設利用率（1日に対応可能な処理能力に対する、1日平均処理水量の割合）は、類似団体平均値を下回っており、処理能力が過大なため、将来的には適正な規模を模索していく必要がある。

水洗化率（汚水処理している人口の割合）については、処理区域内の人口減少に左右されており、接続推進は高齢者世帯が多いため、厳しい状況にある。

### 2. 老朽化の状況について

老朽化について、本事業は整備完了からあまり期間が経過していないため、現状において大規模な修繕等の必要性はないが、適正な維持管理に努め、将来の人口減少を踏まえて施設の計画的な更新を検討しておく必要がある。

## 全体総括

本事業は平成17年度に整備が完了しているため、当面大規模な修繕や更新は見込んでいない。今後、人口減少に伴う使用料収入の減少や施設の老朽化による経費の増加がますます進むと考えられるため、歳出抑制や料金改定の検討が必要となってくる。経営戦略は平成28年度に策定済みで、令和3年度改定したが、地方公営企業法の適用に伴い、再度見直す予定としている。